

磐城時報

福島縣石城郡平町編纂部
印刷部 石城郡平町編纂部
編輯部 石城郡平町編纂部
發行部 石城郡平町編纂部
電話 磐城 四四四
郵政 磐城 四四四
代金 磐城 四四四
廣告 磐城 四四四
印刷 磐城 四四四
電話 磐城 四四四
郵政 磐城 四四四
代金 磐城 四四四
廣告 磐城 四四四
印刷 磐城 四四四

平町の新豫算

委員附托となる

平町昭和五年度豫算並に昭和三向は町税も左の通り制限外に課税する事になった。
年度決算の町會は一日午前十時開き、豫算の内容について井上、馬目(武)馬目(雅)鈴木各氏の質問あり結局委員附托となつた。豫算、決算委員左の如し。
▲豫算 青沼隆太郎、馬目武之助、關内正一、緑川喜三郎、高橋龜松、鈴木光吉、荒川恒次郎、花澤虎五、國府田直良、野崎滿藏、馬目雅治、吉田五平、佐藤岩次郎、櫻井清吉、吉田寅之輔
▲決算 井上茂作、坂本隆藏、猪狩庄平、大森勇、齋藤敏實、根本品藏、千葉彦治、石山治三郎、佐々木龍若、萩原義雄、荒川茂次郎、武田元之助、柳下元吉、永山富廣、吉村安次郎

平町の各税

賦課率
年税營業税一圓に付八十九銭六厘、月税七十六銭、日税八十九銭六厘、年税雜種税九十九銭六厘、月税七十八銭四厘、日税六十七銭二厘、率税雜種税九十九銭六厘、臨時税六十銭二厘

小川江堰總會

三日豫算付議
石城郡四倉町外六箇村一千二百町第二十六區月見町區長は今回余町歩を灌漑する小川江堰水利佐藤源五郎氏が任命された。

江名漁港の擴築を始める

問題の計畫を別に 工費四萬圓を投じて

石城郡江名町漁業組合では最近の實現の上は大型漁船の出入は大型漁船が激増し現在の漁港では狹隘を告げるに至つたので、大いに便利となるであらう。それが擴築工事を計畫中であつたが工費四萬圓を投じて着工することに決定一萬六千圓の國庫補助申請を二十八日縣を経て農林大臣宛に提出した工事計畫の内容は先頃縣會の問題となつたものと全然別なもので現在の漁港を浚渫して擴築するものであり、署水産局では石城郡江名漁港の

區長代理任命

平町區長代理任命は久田太平氏が任命された。

江名漁業調査

農林省では石城郡江名漁港の調査を浚渫して擴築するものであり、署水産局では石城郡江名漁港の

最近俄かに増した失業者の群

その現はれの一つとして 乞食が非常にふれた

田町區長寄附

田町區長平澤勝次郎氏は二百二十圓を平町道と田町溝工事費に寄附した。

小學校に寄附

田町金子重治氏は五十圓、同新田町佐藤福太郎氏は吉野櫻百本を平第三學校に寄附した。

八幡小路の地主町道を無斷使用

役場から撤回命令

平町八幡小路長澤某は自己所有の地に貸家を建て塀を造るのに町道路を二尺巾で約五十間程無斷使用してゐた事町當局で知る處郡川前村農事實行組合創立總會となり昨二十八日平町役場管原は二日同村小學校で舉行する。

色の黒いので有名

代議士 木村清治氏

今度の總選舉で文字通りの手にあせを握らせたのは木村さんと佐藤さんの同志討であつた。廿二日の開票初日では木村さんが三千五百票の多数であつたが、地盤關係で残る相馬半分と双葉全部が佐藤さんに歩かぬので、つひには負けぬ木村さんも今度こそは「とハラ」させたものである。しかし勝ち運が木村さんにあつたこと見え双葉の廣野久之濱を開くに及んで漸く生色を帯び、結局五百近いのきは、い處で軍配があつたのである。

産馬組合總會

豫算は一萬圓
石城産馬畜産組合總會は二月二十八日午後一時から平町事務所を求めたが猫イラズを呑んだは、嘔吐で妻女の浮氣防止の策と判明

猫自殺

妻女の浮氣を止める一芝居

石城郡四倉町宇仲飲食店森よし主人繁藏(三四)は廿七日午後七時半ごろ猫イラズを多量に嚙下したと稱して苦悶してゐるを、妻よしが發見附近の醫師の手當を求めたが猫イラズを呑んだは、嘔吐で妻女の浮氣防止の策と判明

當選祝賀會

木村代議士

木村清治氏の衆議院議員當選祝賀會は二日午後一時から平町聚樂館に於て開催する事になつたが、會費五十錢である。

昨年萬國商會議に出席した
この色が木村さんを有名にしただけに、御本人もこの色を自慢してお出でのやうである。昨秋歸朝後の巡回講演や今度の選挙演説でも「歐米では大のポンペーでは國賓の待遇でした」で大向ふをうならせたものである、恐らくは十一の

三日間 居つづけ

平町の執達吏(特に名を秘す)は去る二十五日から二十七日まで平町南町飲食店某方に登樓三日間居つづけして三百圓を使つたといふので評判になつてゐる。

七名車座で 花合賭博

石城郡赤井村大字高萩小路尾沼(三五)同藤田順次郎(三四)大野村大字駒込字久原高木隆安(四一)平町北目町草野一郎(四〇)赤井村西小川大平三郎(五七)小川村大字上小川菅原七郎(二八)同松本丈之助(五〇)の七名は二十七日午後七時頃前記小路尾沼で花合せ賭博開帳中平署巡查に踏み込まれ逮捕された。

新しいわき發刊 元國

民新聞平支局長半谷政喜氏は今回日刊新聞「新しいわき」を創刊三月上旬から發行する事になつた。

青年が家出 石城郡好

間村佐藤由太郎(二〇)は去る二十日ハイネの詩集を懐にしたまま無断家出したので厭世自殺をなすおそれがあるといふのでこの程父親から平署に捜索方を願ひ出た。

市民大懇親會を 提唱

「風」過、總選挙の最後の幕は下りた。曰く千沙、曰く買収、曰く緊縮、曰く不景氣、曰く票の力、曰く眞に國を擧げての大動員の三句ではあつた。

路傍に墨痕を鏡ふ看板の林立壁といふ壁を埋むるポスターの割合、有権者の机上に推薦状は山とつまれ、舌端火を吐く言論戦は夜を日についで火花を散らした。敵も味方も疲れた、その間に立てる國民の聽管は疲勞し視覚痲痺せんとした。

思へば、舉國、斯くまで熱烈なる社會運動を見たことはない。舉市、斯くまで生々の氣の満ち満ちてゐるを見たことはない。主義熱愛の爲の運動か、主張貫徹の爲の活動か、將た又戦ひの爲の戦ひか？知らず唯發せざるの中に國家をのみこれ思ふ秘められたる心臓の鼓動を耳にする時、こゝに滿腔の感謝を捧げて止まない。

ああ、颯風一過既に總選挙の幕は下りた、下りた最後の幕の彼方に悲喜の思ひをこめて光風霽月懸へる大平町の下に市民としての親愛の情をこめた明かると握手があらうかと思ふ。近來兎角目醒めたる者より信頼を失はんとする政治的危機を一轉して、市民を如何に信頼の情を傾けしむることか。

この晩こそは、我が大平町を一九とせる、大平町本來の生の力は眞の姿をこつて鮮かな脈搏を打つ時でなければならぬ。不肖今こゝに聲を大にして市民大懇親會の提唱を力説する所以である。

今週の映畫

平館 片岡千恵藏 酒井米子 主演「宮本武蔵」日活現代劇
「愛の風景」松竹林長三郎主演
「格の権三」
有聲座 明石緑郎、松本田三郎主演「第二篇貞殺一本」葉山純之輔特別出演「三ッ娘白浪」帝キネ現代劇「探偵見」

貸家案内

五丁目 勤人向 四圓五十錢
長橋町 同 五圓五十錢
舊城跡二ノ丸向 八圓五十錢
柳町 同 六圓五十錢
白銀町 加藤營業所

共済 存共
融金、易融
蓄貯、味趣
堅固、意誠
無病、無災
無事、無難
無病、無災
無事、無難

陽明 專科 內科
腸十二指腸 胃性病
婦人病 皮膚病
院醫科 院醫科
(七〇一話電)

貸家あり
商店向 一ヶ所
家賃 十四圓五十錢
何れも水道の便あり
平町新川町電話二三三番
中野 勇吉

無罪廣告

私儀去る一月中軍鶏賭博事件の被疑者として平署に檢舉取調べを受け候こと各新聞紙に報導され親戚、知人各位に御心配相掛け候段誠に申譯け無之候然るに事實私は單に何心なく物珍らしく現場を目撃したるのみにして賭博等をなしたる事に非ざること判明し青天白日の身と相成り候ものにつき誤解なき様此段廣告仕り候也
昭和五年三月一日
石城郡高久村
藁谷久太郎

外科 専門 X光科

増築落成
平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

鎮咳液

セキの薬
祛痰
特約店 關内藥局
平町四丁目電話四〇番

新妻眼科醫院

入院應需 看護婦一名至急募集
平町字紺屋町

共濟會 各科專門

耳鼻喉科	醫學博士 井上俊次郎
醫學博士 松枝茂	醫學博士 桂重憲
醫學博士 西波林	醫學博士 難波
醫學博士 中野	醫學博士 小西
醫學博士 吉本	醫學博士 熊本
醫學博士 岡本	醫學博士 賀澤
醫學博士 岡本	醫學博士 賀澤
醫學博士 岡本	醫學博士 賀澤

衛生試驗所、病氣相談所、救療所(共濟病院内)
共濟病院内は皆さんの病院であります、御氣付のことは御注意を願ひます。
電話六四二番
平町南町 城警 共濟會
入院自炊ノ便アリ 看護婦見習募集

高久病院

平町田町(電話五二三番)
醫學士 高久 忠
新瀨醫學士 赤羽 清
藥劑士 佐竹 菊
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

トリプチン

三日のむだらピツタリこまる
新治淋
定 價 三日分壹圓 七日分二圓 十一日分參圓
廿日分五圓 四十五日分拾圓
平町 一丁目(電話六四二番)
特約一販賣店 大平屋藥舖